考える力を育む社会科の評価活動
～専門技術で活躍する中小企業～

広島県広島市立千田小学校
福原（ふくはら）　剛（つよし）

【実践の内容】

広島の針工場は，1980年代以降の円高や貿易摩擦，生活習慣の変化にともない斜陽化の傾向をたどっていたが，現在では，一度落ち込んだ生産額を高めるために，精力的に販売ルートを開拓したり，新しい機械を開発したりすることで生産技術の向上を図っている。

生産形態の改善，異技術融合に努めることで素材開発に力を注ぎ，電気器具，魚具，医療，福祉関連製品など経営の多角化を進めているところも多い。本単元では，こうした事実を丹念に調べることで，そこで働いている人々の工夫や努力を具体的にとらえようとするものである。なお，指導にあたっては，見取りとしての評価活動を十分に機能させることで子ども達の考える力を引き出そうとした。

【論文内容の紹介】

1　研究のねらい

見取りとしての評価活動を機能させるために次の点を重視して研究，実践を進めた。

①ポートフォリオを活用した診断的評価
②「教師の見取り」と「子どもの振り返り」の観点の明確化　③対話する時間の確保
④段階指標の作成　⑤学習価値を認める評価

2　単元の流れ

①広島の針作りについて知る。
・針作りがさかんな理由を調べる。
・針の生産が減ってきた理由を調べる。
②なぜ広島の針工場が生き残っているのかを予想し，調べる計画を立てる。
③調査活動を行い，集めた情報を分類・整理して，学習問題に対する結論を導く。
④分かったことや深く考えたことを交流し，広島の針作りの将来について意見文を書く。

3　学習の実際

本単元では，「生産量が減少しているにもかかわらず，なぜ広島の針工場は生き残っているのか？」という中心的な問いを考えるために調べ，さらに考え合うという展開とした。その際，問題に対する予想や気づき，調べて分かったことはワークシートに記入することで，一人一人の思考の様子をとらえようとした。また，問題追究していく場面では，対話の時間を設けたり，一人一人の問題（調べ問題）の質と技能のレベルに応じた指導を行ったりすることで，自らの考えや課題を明らかにしながら学習していくことを大切にした。

終結部では，これまで収集したポートフォリオを振り返ることで広島針の特色や生き残りの理由を明らかにしていった。また，プレゼンテーション場面では，一人一人の学習が内容的，方法的に深まりや広がりを見せていると認められた場合は，その重要性を評価した。

4　分析・考察

ポートフォリオを活用した診断的評価によると，これまでの学習では解決の見通しや方法がもてず，調べたことを上手に表現できない子どもが多いことが確認された。しかし，今回の実践では，対話の時間を設けたり，一人一人の問題の質と技能のレベルに応じた指導を行ったりしたことで的確に問題解決ができるようになった。また，学習価値を認める評価によって，次の目的にむかって意欲的に取り組むことができた子どもも多かった。

5　成果と今後の課題

評価活動をさらに機能させるには，子どもの思考をとらえる手立てを数多くもつことが必要であると感じた。実践では，ポートフォリオや対話の時間，段階指標の作成などを取り入れたが，イラストや説明文，製作図，プラン図などの方法も可能である。この点に配慮して，さらに研究，実践を進めていきたい。